

彙 報

研究活動等（2006年1月～2006年12月）

総合政策学科

帆足俊彦

1. 著書

- (1) 単著（2006年4月）『大学セメスター制に対応した会計学』 DTP出版 ISBN 4-86211-018-5
- (2) 単著（2006年4月）『簿記が分かった・出来た！』基礎と発展 DTP出版 ISBN 4-86211-024-X

2. 研究発表

- (1) 単独（2006年6月）「The Convergence of International Auditing Standards 一會計基準の国際的統合化を踏まえてー」、横浜国立大学

黒羽雅子

1. 論文

- (1) 単著 「米国高利禁止法（Usury Laws）変遷史」地方金融史研究会『地方金融史研究』第37号、2006年3月31日、pp.1～17.

2. その他活動

- (1) 講演 2006年5月13日 山梨県立大学地域研究交流センター 新校舎竣工・センター室オープン記念 「春期総合講座」～最前線シリーズ～ 第1回「消費者ローンとどうつきあうか」～利息制限法の歴史をふまえて～
- (2) 研究発表 2006年9月1日（於：地方銀行研修所）科学研究費補助金（基盤研究B）共同研究『金融ビジネスモデルの変遷』 分担部分「インサイダー・レンディングと機関銀行」
- (3) 審議会等委員 山梨県入札監視委員
(2005年10月～現在に至る)

島袋善弘

1. 『山梨県史通史編6 近現代2』(2006年3月、山梨県) 編集責任担当
2. 山梨県生涯学習推進センター・シンポジウム基調報告「恩賜県有林の成立」
(2006年9月14日)
3. 山梨学院大学公開シンポジウム「山梨県産業の特性と地域振興の方法を探る」コメンテーター
(2006年11月29日)

堤マサエ

1. 著書

- (1) 共著（平成18（2006）年1月）、『新版 社会福祉学習双書2006《第10巻》社会学』『新版 社会福祉学習双書』編集委員会編、社会福祉法人 全国社会福祉協議会出版、第1部第2章 pp.30-67.

2. 論文

- (1) 単著（平成18（2006）年3月）、『直系制家族の世代交替による内部構造の変化と展開－長期反復調査による事例分析－』、（山梨県立大学国際政策学部紀要『山梨国際研究』第1号 pp.1-18）

3. 学術雑誌（解題、書評）

- (1) 単著（平成18（2006）年3月）、「NPO活動と地域づくり」村落社会研究 NO 24 第12巻、日本村落研究学会編、発行 社団法人 農山漁村文化協会発売 pp.18-24.
- (2) 単著（平成18（2006）年3月）、家族社会学研究 VOL.17、書評 永野由紀子『現代農村における「家」と女性 一庄内地方にみる歴史の連続と断絶－』 pp.146-148.

4. 講演他

- (1) 「子育てをめぐる時代と家族・地域の変化－次世代支援策をめぐって－」富山県市町村保健師研究連絡協議会研修大会、富山県市町村委会館、(平成18(2006)年2月)、講演

大西康雄

1. 著書

- (1) 共著(2006年7月)『社会の見方、測り方－計量社会学への招待』勁草書房

2. 報告書

- (1) 共著(2006年3月)「U-Japanに向けて全国へのフィールドの拡大と情報端末の多様化を行う工業系高等学校等に於けるIPv6を用いたユビキタス社会実験研究の展開－山梨地域の取り組み－」情報家電のIPv6化受託研究開発事業

3. 教科書

- (1) 共著(2006年4月)『考えるための情報処理入門(改訂版)』山梨県立大学情報教育担当

熊谷隆一

1. その他

- (1) 評論(単著)「自治体による自主課税の背景にある根本的課題－山梨県のミネラルウォーター税導入問題から－」(財団法人・山梨総合研究所『ニュースレター』vol.98、2006年9月5日発行、pp.1-3)

- (2) 社会的活動 南アルプス市「行政評価システム研究会」座長(2006年9月~)

- (3) 社会的活動 福岡県地方自治研究所「地方財政セミナー」講師(2006年9月14日)

- (4) 社会的活動 山梨県職員研修「法務基礎力養成講座」講師(2006年10月18日、11月1日)

波木井昇

1. 報告書

- (1) 共著(2006年3月)「地域経済とグローバル化－外国人労働者と日本語教育－その1」『山梨県立大学地域研究交流センター平成17年度研究報告書』山梨県立大学地域研究交流センター

2. 雑誌その他

- (1) 単独「外国人との共生社会づくりに向けて～企業への期待、大学の役割」財団法人山梨総合研究所『ニュースレター』vol.95、2006年6月7日発行、pp.1-3

3. 報告

- (1) 単独(2006年7月)「増加する外国人労働者と企業活動、自治体の対応」山梨県立大学地域研究交流センター平成17年度地域研究報告会

4. 研究会講演

- (1) 単独(2006年11月)「インドの経済産業動向について～アジアフォーラム21現地調査報告～」財団法人山梨総合研究所「アジアフォーラム21」研究会

5. その他(社会的活動)

- (1) 財団法人山梨総合研究所主催賛助会員セミナー(2006年3月)「いかにしてアジア系企業を誘致するか～山梨における国際的な地域振興政策の可能性～」パネルディスカッション・コーディネーター

- (2) 財団法人山梨総合研究所「アジアフォーラム21」研究会コーディネーター(6回開催)

- (3) 山梨県市町村合併推進審議会委員・専門委員(2006年1月~)

- (4) 財団法人山梨県国際交流協会評議員

(2006年11月~)

平田忠輔

1. 研究ノート

- 単著(2006年3月)「グローバリゼーションとデモクラシーについて」(4)、山梨県立大学国際政策学部紀要『山梨国際研究』第1号、pp.67-75

箕浦一哉

1. 著 書

- (1) 共著 (2006年5月) 「音環境の共有:《あたりまえ》というレジティマシー」、宮内泰介編『コモンズをささえるしくみ: レジティマシーの環境社会学』新曜社, pp.150–172

2. 論 文

- (1) 単著 (2006年11月) 'Soundscape as a commons: How do we share sound environment?' Tadahiko Imada et al. eds., "The West Meets the East in Acoustic Ecology," Japanese Association for Sound Ecology and Hirosaki University International Music Centre, pp. 357-362.

3. その他

- (1) 講演 (2006年5月) 「「あたりまえ」の中にある観光資源—新しい観光のあり方」、山梨県商工会連合会女性部総会、山梨県国際交流センター
- (2) 研究発表 (2006年5月) 「音響生態学にもとづいた音環境マネジメント試論」、平成18年度第1回音環境研究会、京都大学
- (3) 講演 (2006年9月) 「山村の音風景」、県民コミュニティカレッジ・コラボレーション講座、山梨学院大学

国際コミュニケーション学科

久保田文次

(2005年1月～2005年12月)

1. 著 書

- 単著『筆のすさび・口のすべり: 久保田文次隨筆集』(2005年6月) 日本女子大学史学科研究室・同窓会

2. 論 文

- (1) 単著「從『萱野長知・孫文関係史料集』發現的新史実」中国社会科学院近代史研究所編『第二届近代中国与世界學術討論会論文集』第三卷 北京 社会科学文献出版社
(2005年1月)
- (2) 単著「梅屋庄吉日記の性格; 梅屋庄吉と近

代日中関係 その一『近きに在りて』47号

(2005年8月)

- (3) 単著「梅屋庄吉研究成果與課題; 孫文・蔣緯國・王大楨・何思敬」林家有・李明主編『看清世界與正視中國; 孫中山與世界國際學術討論會論文集』天津 天津古籍出版社
(2005年8月)

- (4) 単著「章開沅先生的學問與我」華中師範大學中國近代史研究所編『春風化雨、潤物無聲; 章開沅先生八十華誕紀念集』武漢 同研究所
(2005年10月)

- (5) 単著「孫文・梅屋庄吉とインド革命家の交流; バルカトゥツラー、バグワーン・シン、R・B・ボース、波多野春房をめぐって」日本女子大学史学研究会『史艸』46号(久保田文次教授退任記念号)(2005年11月)

3. 学会発表

- (1) 2005年1月22日「梅屋庄吉研究の成果と課題; 孫文・蔣緯國・王大楨・何思敬」辛亥革命研究会 於日本女子大学
- (2) 「挨拶; 宇都宮太郎大将と宇都宮徳馬先生」2005年2月26日 日本女子大学文学部主催・科学研究費助成国際学会「日露戦争前後の東アジアと日本」於日本女子大学
- (3) 2005年10月15日「章開沅先生の學問與我」華中師範大学中国近代史研究所主催「章開沅先生与中国近代史研究国際學術討論会」於華中師範大学(武漢)

- (4) 2005年12月7日「武田信玄と板垣退助; 幕末維新甲州断金隊の活動について」山梨近代史の会 於山梨県立大学

4. 評論員

- 日本華人教授会議主催・国際交流基金後援「中国同盟会結成100周年国際学術討論会」2005年12月10日 於千葉商科大学

5. 講 師

- 「東京・横浜における中国革命関係史跡案内」(前掲日本華人教授会議主催国際学術討論会)
2005年12月11日 於横浜・東京

6. 講 演

- (1) 「中国改革開放經濟と飲食・交通通信の変

化」 2005 年 9 月 3 日 小淵沢町中央公民館
(2) 「孫文の革命精神を現代に ; 中国同盟会結成 100 周年にあたって」 滔天会 2005 年 11 月 19 日 於東京華僑總会

(2006 年 1 月～ 2006 年 12 月)

1. 論 文

単著「樋口一葉を哀悼した中国革命家陳少白 ; 伊東夏子・副島八十六・片山潛・孫文を結ぶもの」 日本女子大学史学研究会『史艸』 47 号 (2006 年 11 月)

2. 学会発表

2006 年 11 月 7 日 「梅屋庄吉・孫中山和印度革命家」 中国社会科学院・中国孫中山研究学会等主催「紀念孫中山生誕 140 周年国際學術討論会」 於中国広東省中山市

3. 講 演

(1) 「孫文を助けた日本人 ; 宮崎滔天と梅屋庄吉」 放送大学公開講演 2006 年 1 月 8 日 於千葉市

(2) 「中国の開放改革経済」 日本女子大学史学科同窓会 2006 年 6 月 24 日 於日本女子大学

4. その他

(1) 国立国父紀念館（在台北）『孫学研究』（雑誌）編輯顧問（2006 年 4 月～）
(2) 孫中山記念会主催「孫文と南方熊楠国際學術討論会」実行委員 2006 年 12 月 8 ～ 9 日、於神戸市

王 順 洪

1. 論文発表

(1) 共著（2006 年 3 月）（王順洪・名和敏光）「日本中国語教育的道路」、山梨県立大学国際政策学部紀要『山梨国際研究』第 1 号
(2) 単著（2006 年 10 月）「基礎深厚、扎实推進、全面繁荣—日本漢語教育情況綜述」北京大学对外漢語教育学院『漢語教學学刊』第 2 期

千 森 幹 子

1. 学術論文

(1) 単著（2005 年 3 月）「初期『不思議の国のアリス』翻訳に見る諸相(1)『比較文化研究』第 72 号、pp. 1 ～ 10

2. 書 評

(1) 単著（2006 年 11 月） Frankie Morris, Artist of Wonderland: Life, Political Cartoons, and Illustrations of Tenniel、『ヴィクトリア朝文化研究』第 4 号、p.83 ～ 86.

3. 国際学会発表

(1) 単独発表（2005 年 9 月） 'Oriental Illustrations of Alice,' ASH Colloquia, Cambridge, Clare Hall, the University of Cambridge, Cambridge.

吉 川 豊 子

1. 研究報告（共著）（2006 年 3 月）「『女学雑誌』と『山梨女性史ノート明治編』」「やまなし地域女性史研究プロジェクト」（山梨県立大学地域研究交流センター平成 17 年度報告書）
2. その他 「生誕 110 年吉屋信子展 女たちをめぐる物語（上）」「神奈川新聞」（2006 年 4 月 26 日）

安 藤 淑 子

1. 報告書

(1) 共著（2006 年 3 月）「地域経済とグローバル化—外国人労働者と日本語教育—その 1」『山梨県立大学地域研究交流センター平成 17 年度報告書』 山梨県立大学地域研究交流センター

(2) 共著（2006 年 3 月）「甲府工業高校と清州機械工業高校の姉妹校交流に関する研究—プロジェクトワークを通じた異文化理解教育の可能性—」『情報家電の IPv6 化受託研究開発事業成果報告書』 平成 17 年度成果展開等研究開発事業

2. 報 告

(1) 単独（2006 年 7 月）「日本語教育を中心とする外国人労働者への地域支援の現状」 平

- 成 17 年度地域研究交流センター研究事業報告会
3. 講 演
- (1) 「内なる国際化一言葉でつなぐ人と人ー」(2006年5月) 南アルプス市国際交流協会総会
 - (2) 「内なる国際化と多文化共生社会」(2006年11月) 南アルプス市日本語教室研修会 南アルプス市国際交流協会
 - (3) 「地域日本語教室の役割」(2006年11月) 南アルプス市日本語教室研修会 南アルプス市国際交流協会
4. その他の活動
- (1) 「多文化共生セミナー(第二回)」コーディネーター(2006年7月) 山梨県国際交流協会・山梨県立大学共催
 - (2) 南アルプス市日本語教室検討委員会アドバイザー(2006年11月~)

伊藤ゆかり

1. 論 文
- (1) 単著(2006年3月)「A・ケネディの初期戯曲における色のイメージ」山梨県立大学国際政策学部紀要『山梨国際研究』第1号、pp.41-48

高野美千代

1. 論 文
- (1) 単著(2006年3月)「王制復古期の出版物と社会」山梨県立大学国際政策学部紀要『山梨国際研究』第1号、pp.49-56
2. 学会発表
- (1) 単独(2006年4月15日)「書籍商チズウェルのブックリストからみる王制復古期の出版物と社会」17世紀英文学会東京支部例会、於:明治学院大学

戸田徹子

1. 論 文
- (1) 単著(2006年3月)「カロザース夫人の『日出づる国』」山梨県立大学国際政策学部紀要『山梨国際研究』第1号、pp.31-40
2. 報告書
- (1) 吉川豊子、戸田徹子他(2006年3月)『山梨県立大学地域研究センターやまなし地域女性史研究プロジェクト 平成17年度研究報告書』

名和敏光

1. 翻 刻
- 単著「翻刻『史記雕題』(七)」山梨県立大学国際政策学部紀要『山梨国際研究』第1号(2006年3月15日発行) 1-18頁
2. 海外学会参加
- 新出楚簡国際学術研討会 於中華人民共和国湖北省武汉市武汉大学 2006年6月24日~29日

二戸麻砂彦

1. 学会発表
- (1) 単独(2006年11月25日)「K入声音漢語『装束』」平成十八年度國學院大學国語研究会後期大会・國學院大學渋谷キャンパス

平野和彦

1. 論 文
- (1) 単著「康有為的書畫理論在今日之評價」(『当代書画藝術發展回顧与展望 2006 国際學術研討會論文集』国立台湾艺术大学編印・2006年9月、pp.174-206)
2. 学会発表
- (1) 単著「康有為的書畫理論在今日之評價」(国立台湾艺术大学主催『当代書画藝術發展回顧与展望 2006 国際學術研討』、2006年5月 12~13 日、於国立台湾艺术大学)
 - (2) 共著「当代書画藝術發展回顧与展望」パネリスト(国立台湾艺术大学主催『当代書画藝術發展回顧与展望 2006 国際學術研討會』パ

・ネルディスカッション、2006年5月13日、
国立台湾芸術大学書画芸術学系主任教授林進
忠、上海博物館研究員孫慰祖、東海大学教授
姜一涵ほか、於国立台湾芸術大学)

3. 研究ノート

- (1) 単著 (2006年3月) 「日中英言語対照に
係る試論—村上春樹著『ねじまき鳥クロニク
ル』の表現をめぐって」(山梨県立大学国際
政策学部紀要『山梨国際研究』第1号、pp.
77-88)

4. エキシビション

- (1) 国立台湾芸術大学主催『当代書画芸術創新
展』招待出品、作品2点(於台北县政府大楼、
2006年5月12~21日、2006当代書画芸術
創新展作品專輯、pp.44)

前澤 哲爾

1. 論 文

- (1) 「急拡大するフィルムコミッショング、「映
像新聞」1月2日11p、株式会社映像新聞社
(2) 「いまだ『鎖国状態の日本』 国際的プロデュー
サーが不足」、「映像新聞」6月5日号 pp.15、
株式会社映像新聞社
(3) 「映像文化とまちづくり 地域活性化に向
けたフィルムコミッショング活動」、「地域活性」
6月号 pp. 4 – 7 財団法人地域活性化セン
ター
(4) 「フィルムコミッショングからの提案」、「日
本映画テレビプロデューサー協会」会報10
月号 pp. 2
(5) 文化庁映画週間公式記録報告書「第3回文
化庁・全国フィルムコミッショング・コンベン
ション」、文化庁 06年3月25日発行 pp.59
– 94

2. 新聞掲載原稿

- (1) 山梨日日新聞「展望台」(日曜日・経済面)
に月1回原稿連載
1月22日「ある地方都市の魅力」
3月12日「バンコクの国際化モデル」
4月16日「これからトルコに注目」
5月14日「カンヌ映画祭の実像」

- 6月18日「文化鎖国ニッポン」
7月30日「『地域プロデューサー』なろう」
9月3日「広い中国、可能性は無限」
10月8日「物価高のヨーロッパ」
11月12日「FCと経済効果」
12月17日「『国際カフェ』の夢」
(2) 朝日新聞「やまなしに想う」(土曜日・山
梨版)に月1回原稿連載
10月28日「映像と学生 人を育てる活動
奔走」
12月9日「勝利の方程式 色あせぬ信玄の
知恵」
(3) 上毛新聞「オピニオン21 視点」に月1
回原稿連載
11月14日「日本映画は元気か」

3. 地域プロジェクトの実施

- (1) 「やまなし・ディスカバラー・プロジェク
ト」(05年11月~) 笛吹市、南アルプス
市、早川町、中央市でフィールド調査
(2) 「桜座で車座」(06年3月~12月) 月1回、
計10回実施
(3) 「地域プロデューサー養成講座」(06年6
月~12月) 10回開催
(4) 「インターナショナル・カフェ・プロジェ
クト」(06年6月~) 3回実施

4. その他の活動

- (1) 全国フィルム・コミッショング連絡協議会
専務理事、事務局長、企画委員長(03年6
月~)
(2) 政策学校NPO「一新塾」理事・講師(02
年~)
(3) 武蔵大学 社会学部 客員教授(05年4
月~07年3月)
(4) 「アジア・フィルムコミッショング・ネット
ワーク」アドバイザー(04年10月~)
(5) 「アースビジョン・地球環境映像祭」審査
委員長(06年8月~)
(6) 群馬県「ぐんまフィルムコミッショング連絡
会議」議長(06年8月~07年3月)
(7) 山梨県「富士の国やまなしフィルムコミッ
ショング」アドバイザー(05年6月~07年3

月)

- (8) 文化庁「国内外からのロケーション誘致に鑑みた撮影環境の調査研究委員会」委員長(06年12月～07年3月)
- (9) 文化庁映画週間「第4回文化庁・全国フィルムコミッション・コンベンション」プロデューサー(06年10月)
- (10) 国内外各地で講演活動(東京、甲府以外)
韓国・ソウル、前橋市、松本市、高松市、岡山市、フランス・カンヌ、長崎市、静岡市、桐生市、浜松市、沖縄県北谷町、韓国・プサン、大津市、新潟市など

八代一浩

1. 研究会

- (1) 「遠隔の操作センターから管理が行える教育計算機システムの構築と評価」、八代一浩、鈴木嘉彦、伊藤一帆、片谷教孝、豊木博泰：情報処理学会分散システム/インターネット運用技術研究報告 2006-DSM-43, pp.7-12
2006年9月

2. 全国大会

- (1) 「仮想計算機技術を用いた遠隔制御教育用計算機システムの開発」、八代一浩、末木完治、阿部義弘、手塚仁：マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO 2006)シンポジウム、論文集(2) pp.941-944、2006年7月

3. その他

- (1) 「仮想マシンを使った動画配信環境の構築」、水越一貴、羽田友和、八代一浩、地域ネットワーク連携シンポジウム 2006 in 帯広予稿集、pp.151-154、ISSN 1343-3083、2006年9月22日
- (2) 「教育用計算機システムのアウトソーシング～ストレージシステムのアウトソーシングへの課題～」、八代一浩、ニュースレターレポート Vol.6 (2006.5.12)、サイエンティフィック・システム研究会

4. 報告書

- (1) 「U-Japanに向けて全国へのフィールドの

拡大と情報端末の多様化を行う工業系高等学校等に於ける IPv 6 を用いたユビキタス社会実験研究の展開研究」—山梨地域の取組—研究成果報告書、2006年3月

- (2) 「U-Japanに向けて全国へのフィールドの拡大と情報端末の多様化を行う工業系高等学校等に於ける IPv 6 を用いたユビキタス社会実験研究の展開研究」研究成果報告書、2006年5月

吉田 均

1. 著 作

(1) 書 稿

- 1) 吉田均 (2006年9月) 「地方自治体の対中環境協力」、九州経済調査協会『地方からの日中環境協力～九州モデルの構築に向けて～』(NIRA 受託調査)、九州経済調査協会
- 2) 環日本海学会 編 (事典編集委員および項目執筆者) (2006年10月) 『北東アジア事典』、国際書院

(2) 論 文

- 1) 山梨県立大学国際政策学部 IPv 6 国際交流チーム (共著) (2006年3月) 「甲府工業高校と清州機械工業高校の姉妹校交流に関する研究—プロジェクトワークを通じた異文化理解教育の可能性—」、『U-Japanに向けて全国へのフィールドの拡大と情報末端の多様化を行う工業系高等学校等に於ける IPv 6 を用いたユビキタス社会実験研究の展開』(平成 17 年度独立行政法人情報通信研究機構委託事業)、山梨県立大学
- 2) 吉田均 (2006年6月) 「北海道における中国企業誘致の可能性」、『コンストラクションズ アイズ 建設の目』Vol.113 (June 2006)、札幌メディア総合研究所

2. 発表・講演

- (1) 山梨県立大学国際政策学部 IPv 6 研究チーム (村松浩・吉田均・八幡茜・塙田涼子・佐藤永里)、(2006年5月31日)、「甲府工業高校と清州機械工業高校の姉妹校交流に関する

る研究』、山梨県立甲府工業高等学校

- (2) 吉田均 (2006年6月15日) 「やまなしインターナショナルネットワークの可能性」『やまなしインターナショナルネットワーク総会』、やまなしインターナショナルネットワーク。 *コーディネーターとしてのコメント
- (3) 吉田均 (2006年9月29日) 「如何にして中国人観光客を誘致するか～山梨国際観光創業特区からみえる可能性～」『産業観光都市甲府推進特別委員会』、甲府商工会議所
- (4) 吉田均 (代表)、川崎繩子、篠原里奈、滝隼人、塚田涼子 (2006年10月9日) 「NPOの多文化共生活動に係る意向調査－調査結果の要約－」『NPO多文化共生フォーラム～多様性を尊重するまちづくりのために～』、やまなしインターナショナルネットワーク、山梨県ボランティア協会

3. 社会貢献

- (1) JICA 山梨県地域国際協力センター
*JICA 広尾センターが所管する、山梨県での国際協力事業の推進に関わる助言、プロジェクトの実施支援 委嘱団体：独立行政法人国

際協力機構広尾センター 期間：2006年9

月1日～平成19年3月31日

- (2) 上越市国際化推進アドバイザー

*新潟県上越市の国際化施策および国際政策策定の助言・作成支援 主催：上越市 期間：平成18年4月1日～平成20年3月31日

4. そのほか

- (1) 吉田均 (2006年3月) 「『アジアフォーラム21』公開セミナー いかにしてアジア系企業を誘致するか～山梨における国際的な地域振興政策の可能性～」、山梨総合研究所編、『アジアをみる「アジアフォーラム21」平成17年度活動報告書』、山梨総合研究所
- (2) 吉田均 (2006年7月) 「活躍している卒業生、死してなお生きる」『東京経済大学報』、第39巻第2号。
- (3) 吉田均 (2006年8月) 「山梨における国際的地域経営の可能性－「山梨国際観光創業特区(仮称)」の挑戦－」『山梨総合研究所 News Letter 地域から未来が見える』、Vol. 97